

令和6年度施設関係者評価

令和7年3月26日

報告者氏名

菊地 渉

評価者氏名

百戸 澄江

全体評価

ICT を活用し、保護者へ子ども達の様子を公開、保護者との信頼、安心感、職員研修、自己評価も見直しや次への発展等、取り組みが素晴らしいです

個別評価

評価項目		実施状況	評価
教育課程 指導	全体計画の立案、実践	4月計画作成、随時評価、3月評価反省及び改善事項の洗い出し	5.0
	年齢別指導計画	年案、月案、週案作成	5.0
	保育の記録	日々の保育記録（日誌） 保育ドキュメントの作成	5.0
保健管理	学校保健計画	看護師を中心に4月計画作成、随時評価、3月評価反省及び改善事項の洗い出し	5.0
安全管理	学校安全計画	幹部職員を中心に4月計画作成、随時評価、3月評価反省及び改善事項の洗い出し	5.0
特別支援 教育	発達支援	心理士による指導助言実施	3.75
組織運営	園務分掌	職位・分掌に基づき遂行	5.0
	職員会議	リモート会議月2回（全職員）	5.0
	運営会議	対面で月1回（副主幹以上）	5.0
	給食会議	書面で意見交換	5.0
研修	園内研修	園内研修：公開保育（保育団体及び町内関係者）	5.0
	外部研修	職位職階に対応したオンライン研修実施	5.0
教育目標	根気強く取り組む子 思いやりがある子 挨拶ができる子	保育活動の中で具現化	5.0
情報提供	お知らせ	園だより・一斉メールの活用	5.0
	保育内容	おうちえん掲載	5.0
保護者との 連携	行事への招待、保育の公開	運動会参観（全員）、発表会（2歳以上）、 保育参観（0、1才）、保育ドキュメント作成および動画公開	5.0
地域住民との 連携	行事への招待	運動会参観	5.0
子育て支援	子育て支援室	予約によるイベントの受け入れ、自由開放	5.0
預かり保育		1号認定児に対する 午後の預かりを実施	5.0
教育環境 整備	教育環境整備	用務員、主幹保育教諭を中心に整備	5.0
食育	食育活動	調理担当を中心に食育計画作成、クッキング活動 野菜、コメ栽培	5.0
養護	健康支援	看護師を中心に検温、手指衛生の指導、体調管理 午睡チェック 0才：5分毎 1才：10分毎	5.0
苦情解決		掲示あり 記録簿あり	5.0
保幼小接続		保幼小接続会議への参加、公開保育及び公開授業による相互理解	5.0

その他

- ・子ども達のことを考え、安全でより良い環境を作ってくださっていると思います。おうちえんでは子ども達の姿がたくさん見れ良かったなと思いました。
- ・学年等関係なく園児を全ての先生で見ていると感じて安心して預ける事ができました。異学年での交流もあったりして、小さい子の接し方なども学べる環境があり、子供たちがいろいろな経験ができる素敵な保育園です。
- ・たくさんの資料から、さまざまな項目において細やかに計画されていることが見取れました。また昨今、問題となっている気象現象や災害、感染症対策、保育中の事故等に関しましても、対策を施されていることがわかります。個人的には園と園児、保護者をつなぐツールとして「おうちえん」を今年度より取り入れてくださったことは大変有効だったと感じます。

保護者代表 塚越 梓 飯田 里津子 木村 寛子

令和6年度施設関係者評価

令和7年3月26日（水） 午後5時より

参加者：理事1名 きりん組保護者代表3名

目的：保育者の自己評価、園の自己評価をもとに、現状に対する共通理解を図り、管理面、運営面等の改善協力を促進する。

1. 保育者の自己評価（2010年度より実施）

使用書籍：【平成30年度施行 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく

自己チェックリスト100】（保育総合研究会監修）

○実施方法：年2回（11月・2月）実施 項目ごとに4段階評価

11月に園長との1on1面談の中でオリジナル設問での自己評価を行った。その際、同じ項目について園長からの評価を伝え、伸ばしてほしい部分と課題の洗い出しを行う。

2月はチェックリストを用いて年間を通した振り返りを行った。各設問への理解度の確認と共に、クラス運営や自身の保育について見つめ直しつつ、園の目指す方向性の確認と次年度への課題を明らかにした。

<自己評価集計結果> 別紙資料参照

①保育関係（管理職・子育て支援担当含む）	100項目
Ⅰ 園の基本姿勢について	100%（前年 94.3%）
Ⅱ 教育保育要領理解と実践	
総則	85.7%（前年 82.8%）
内容・配慮事項	89.3%（前年 88.9%）
健康安全	83.4%（前年 85.5%）
子育ての支援	86.3%（前年 87.5%）
Ⅲ 園独自の取り組み	89.5%（前年 96.8%）
②給食関係	給食担当専用設問 100項目
	食育
	食事の提供
	衛生管理
③支援	100項目のうち該当部分のみ回答

2. 園の自己評価

①保健衛生

- ・LEBERの契約が終了となり、各人による体調管理を基本とする。発熱の基準を37.8℃に設定し、園児が体調不良の際は健康支援室で看護師が様子を見た後、回復するようならクラスに戻るなど柔軟に対応していった。
- ・インフルエンザは5類だが、家族にり患者がいる場合は登園自粛を依頼している。どうしても難しい場合は健康支援室で受け入れを行う。
- ・節目ごとに看護師による手洗い指導を実施した。また、集会でも咳エチケットやうがいや手洗いの大切さについて呼びかけ、園児が衛生を意識できるようにした。
- ・全国的に手足口病やインフルエンザが猛威を振るっており、園内でも罹患者が出た。手足口病は累計101名と3歳未満児クラスを中心に広がったものの、インフルエンザは年間で10名と大きく広がることなく収束した。
- ・保健関係の情報発信として年4回の保健だよりを発行。その他、境町からの注意喚起や園内の体調不良者の状況に応じて、その都度マチコミを通して行った。
- ・手ぶら登園を導入する。3歳未満児は全員にエプロンと口拭きのサブスク利用を依頼することで、給食時における衛生を保つために十分な物品を確保することができた。

②保護者とのコミュニケーション、情報発信

- ・前年度の保護者アンケートに基づき、職員間で話し合いを行った。特に行事については子どもと保護者にとって良かった部分を考慮し、新たな展開方法を模索していった。アンケートの集計回答は園内に掲示するとともに、PDFファイルを添付可能なマチコミで全保護者に配信した。
- ・運営するHPを法人、子育て支援、リクルートの3本体制とし、引き続き暗号通信方式（HTTPS化）の従量課金を行う。保護者専用HPはサーバーの都合で修復が困難となったが、その分の発信はおうちえんで行った。
- ・おうちえんで発信したおたよりは、玄関に同じ情報を記載した紙媒体を設置し、自由に持っていけるようにしている。おうちえん導入初年度ということもあり、紙媒体を望む声は多かった。
- ・おうちえんのドキュメンテーション発信により、園での保育の様子について保護者との共有を行った。また、3月の保護者懇談会でもおうちえんを使用し、写真もあるため一年間の歩みが伝わりやすいと好評をいただいた。
- ・登降園の際の情報交換をより深めるため、また、保育室内の様子を感じてもらいやすいよう、保護者の園内への立ち入りを継続する。
- ・園からの公式発信をおうちえん（園ページ）とマチコミ（随時）の二本体制にし、情報が滞ることを避けるよう努めたが、通知が増えたことで返って混乱を招くきっかけにもなってしまっていたようだ。マチコミの発信数は156回、ドキュメンテーションの発信数は744通、アップロードした写真は30,996枚、動画は1067本であった。

③園組織のマネジメントと保育の質向上

- ・今年度の重点事項は【保育を語る】。昨年に引き続き、一人一人のスキルアップとやりがいの好循環を目指していった。具体的には、学級運営に関わる職務内容は同一労働だが、目標に向かう保育内容は個々の得意分野を尊重し、発揮し合うことと失敗を許容する組織作りに努めた。
- ・法人の理念を明確な言葉として打ち出し、冊子にして全職員で共通理解を図る。
- ・全クラス担任、子育て支援担当、給食室担当にスマートフォンを支給し、おうちえんの運用を開始する。おうちえんではドキュメンテーションの作成・発信を行うと同時に、子どもの育ちをポートフォリオ形式で作成していく。これにより、全て文字で記載していた児童票は廃止し、園と家庭で育ちを共有できる状況を構成する。また、重複部分の多かった事務作業を見直し、指導計画は3歳以上児と3歳未満児で、長期計画を一つ、短期計画を一つ作成することとした。
- ・勤務時間内に別室で振り返りや事務作業をすることのできる時間（ノンコンタクトタイム）を確保することで、事務作業が終わらないことに起因する残業がなくなった。同時に、各自で集中して振り返りと課題の洗い出しを行うことにより、保育の語り合いの活性化を図る。
- ・月2回の職員会議と月1回の給食会議は、全クラスが園児から離れることなく参加できるようリモートで実施し、運営会議は活発な意見交換を促すため、引き続き少人数での対面方式とする。
- ・園内研修は看護師による新人職員への保健研修や救急救命講習の他、自分の保育や子どもについて語り合う機会を多く設けた。また、各職員が園務分掌に対応した分野やこれから目指したい内容を中心に、茨城県で認定されているキャリアアップ研修に参加した。
- ・全職員が年2回の園長との1 on 1面談を実施した。
- ・「子どもがもっと遊びこめる環境作り」を目標に、たけのこ保育園との保育士交流を計8回実施した。交流後は各クラス的大幅な模様替えにより、意図を持ったコーナーの強化を行った。子どもの遊びの様子によって何度も試行錯誤しており、多いクラスでは月に1回の模様替えが行われている。
- ・3歳以上児クラスでは、園児が自分で給食を食べる時間を選択できるようにする。自ら生活リズムの見通しを立てることにより、進んで行動することができるようになった。給食の残食も削減に繋がっている。
- ・各クラスにトランシーバーを支給する。緊急時にもスムーズに連携できるよう日頃から業務連絡で使用しており、特に、急な体調不良があった際の看護師への応援依頼を含む初動が高速化した。